opusdei.org

## 属人区長のメッセージ(2024年12月16 日)

オプス・デイ属人区長は御降 誕を祝うにあたり、24日から 始まる聖年の中心テーマであ る「希望」について内省する よう招きます。

2024/12/16

愛する皆さんへ。イエスが私の子どもたちを守ってくださいますように!

来る24日に全教会のための聖年が始まります。まさに降誕節の日々は、教皇様が聖年の中心的なメッセージとして掲げた「希望」について私たちに語りかけます。

人間的に見れば、あのベツレヘムの 夜は絶望する動機になりえたかもし れません。イエスは孤独、貧しさと 寒さに囲まれて生まれ、尊厳も快適 さもありませんでした。彼を迎えた のは愛情深く世話をするマリアとヨ セフ、そして羊飼いたちの挨拶だけ でした。しかし神はそのような形で 人間の歴史に入ることを望まれたの です。そしてこの弱さの中に、希望 ある未来の約束が隠されています。 イエスの誕生は闇を光に変え、私た ちに寄り添い、慰めを与え、真の富 がどこにあるのかを示してくれま す。

教皇様は、「キリスト者の人生は、 目的地である主キリストとの出会い を垣間見せてくれるかけがえのない 伴侶、すなわち希望を養い強める絶 好の機会をも必要とする旅路だとて うこと」を私たちに思いないとし ・「希望は欺かな「絶好となれます(『希望は欺かな「絶好ののいかな」を好ったまする確かしまするである。 会」のひいつくしみにおける確かもしれません。

実性です。これが私たちの希望の基盤です。

私たちの幸せ一地上の幸福そして永 遠の幸福一に最も関心を持っておら れるのは神であるということを知る ことは、人生において生じる逆境に 意味を与えるための手助けとなりえ ます。聖ホセマリアはよく「Omnia in bonum」(すべては善のため)と 繰り返していました。神の愛は悪よ り強いので、すべての出来事は、神 秘的な形で、私たちとその他の人々 の善に貢献することができます。困 難を完全になくすことはできません が、それらをイエスとともに歩み、 分かち合うことは可能です。「わた したちは苦しみを避け、苦しみから 逃れることによっていやされるので はありません。むしろわたしたちが いやされるのは、苦しみを受け入 れ、苦しみを通して成長し、キリス トと一致することに意味を見いだす ことによってです。キリストは限り

ない愛によって苦しまれたからです」(ベネディクト十六世『希望による救い』37番)。現在、戦争や自然災害の影響で苦しむ多くの人々を可能な限り助け、特に祈りで彼らに寄り添うよう努めましょう。

御降誕の夜は、聖母マリアと聖ヨセフにとって、複雑な感情の時であったと考えることができます。イエきによりふさわしい場所を提供できたいという悲しみと、イエスを腕にり出れない喜びが合いたことでしょう。彼ら記しまりではないたことでしょう。彼ら望れるよう願い求めましょう。

御降誕のお祝いと、心からの祝福を 込めて

皆さんのパドレ

フェルナンド

ローマ、2024年12月16日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchou-messeeji-20241216/(2025/11/24)